

## 第 57 回 IRIDeS 金曜フォーラム

日 時：平成 30 年 9 月 28 日（金）16 時 30 分～17 時 30 分（発表+質疑応答 50 分）

会場：東北大学災害科学国際研究所棟 1 階 多目的ホール

（仙台市青葉区荒巻字青葉 468-1）

テーマ：ティータイムディスカッション ～学際的な災害研究の課題と展望～

いつもと形式を変えて開催します。

タイトル：南海トラフ地震災害の対応をみんなで考える－西日本豪雨災害の  
ふりかえりを受けて－

話題提供者：佐藤 翔輔 准教授（情報管理・社会連携部門 災害アーカイブ研究分野）

### 発表要旨

南海トラフ地震は「30 年以内に 80%」の発生が予想されており、その被害想定は東日本大震災を大きく上回る 32 万人以上が犠牲になることが試算されている。南海トラフ地震が起きる前、また起きた後に、東北大学災害科学国際研究所は何ができるのか。この課題について、話題提供を踏まえながら、様々なアイデアを出し合い、今後の方向性を得る機会としたい。

1. 趣旨説明
2. 南海トラフ勉強会で得られたもの
  - ▶ 災害理学研究部門 福島洋
3. 西日本豪雨での緊急調査 WG としてのふりかえり
  - ▶ 地域・都市再生研究部門 森口周二
4. 東日本大震災での他大学による対応の事例
  - ▶ 調整中
5. 意見交換
  - ▶ 基本的にはブレインストーミング

後日、担当がレポートを作成する予定。

タイトル：北海道南西沖地震から 25 年、奥尻島の復興プロセスと島の現在

話題提供者：定池 祐季 助教（情報管理・社会連携部門 災害復興実践学分野）

### 発表要旨

1993 年 7 月 12 日に発生した北海道南西沖地震の最大の被災地となった北海道奥尻島。東日本大震災発災後、ピーク時には年間 1,000 名を超える視察等を受け入れた。しかし、視察が激減した今の方が、島内で興味深い取り組みが見られている。

本ブースでは、奥尻島の 25 年間を簡単に紹介した後、「マラソン」「ワイン」「島留学」など、奥尻島の復興プロセスや、今を知るためのいくつかのキーワードを提示し、会場のリクエストに応じて解説を加える。そして、被災地支援や分野観連携に繋がるような会場とのディスカッションを展開したいと考えている。

タイトル：広域災害救急医療情報システム（EMIS）について

話題提供者：佐々木 宏之 助教（災害医学研究部門 災害医療国際協力学分野）

### 発表要旨

阪神淡路大震災以降、日本の災害医療は災害拠点病院、DMAT、広域医療搬送計画、広域災害救急医療情報システム（EMIS）の4点を中心に整備が進められた。このうちEMISは、医療需給アンバランスの経験から、医療機関と行政、関係機関の情報共有ツールとして開発された。EMISの機能として、災害時施設等情報、医療搬送患者情報、支援情報、平時の施設情報などを共有できる。本ブースでは、DMAT隊員養成研修コース資料、実際のEMIS画面を参照しながらEMISの基礎、また災害医療の基礎（一部）について解説し、他分野との連携研究の可能性を探りたい。

司会・進行：

稲葉 洋平（災害放射線医学分野）

マス エリック（広域被害把握研究分野）